医療被ばく研究情報ネットワーク第１６回総会　議事次第

１．日時　：2024年6月10日（月）14：00～16：00

２．場所　：Teams を利用した Web 会議
　Teams ミーティング URL
https://teams.microsoft.com/l/meetup-join/19%3ameeting_YWVkZjU1NzUtZGU0YS00NmUzLWIwM2UtODYyNDg2NzdhODI0%40thread.v2/0?context=%7b%22Tid%22%3a%226ca85328-a490-4ba0-8df9-d0b978df06cd%22%2c%22Oid%22%3a%22131aec52-7137-48b7-9826-01d6bb5020fe%22%7d

３．議題
（1）前回会合の議事概要の紹介
（2）団体会員の新規加入について（審議事項）
（3）DRL-WG の活動状況について（報告事項）
（4）J-RIME の HP の移設について（報告事項）
（5）会員の活動報告（報告事項）
（6）その他

4. 配付資料

資料1	J-RIME 第 15 回総会議事概要
資料２－１	J-RIME 団体会員一覧
資料２－２	日本消化器がん検診学会_J-RIME 団体会員申請書
資料3	J-RIME_HP の移設について
資料４－１	医療放射線防護連絡協議会からの報告資料
資料４－２	日本医学物理学会からの報告資料
資料４－３	日本医学放射線学会からの報告資料
資料４－４	日本画像医療システム工業会からの報告資料
資料４－５	日本歯科放射線学会からの報告資料
資料４－６	日本診療放射線技師会からの報告資料
資料４－７	日本乳がん検診精度管理中央機構からの報告資料
資料４－８	日本脳神経血管内治療学会からの報告資料
資料４－９	日本放射線技術学会からの報告資料
資料４－１０	日本保健物理学会からの報告資料
資料5	プレス発表資料　おきなわ津梁ネットワークに線量管理機能追加へ

資料１

医療被ばく研究情報ネットワーク　第 15回総会　議事概要

１．　日　時　：2023年5月8日（月）10：00～11：40

２．　場　所　：Teams を利用した Web 会議

３．　出席者（敬称略）：

団体会員

医療放射線防護協議会（菊地透、佐々木康人）

日本医学物理学会（古場裕介）

日本医学放射線学会（粟井和夫）

日本インターベンショナルラジオロジー（赤羽正章）

日本核医学学会（森一晃）

日本核医学技術学会（石黒雅伸）

日本医療画像システム工業会（稲葉潔、桑原健、長東澄也）

日本歯科放射線学会（西川慶一）

日本小児心臓 CT アライアンス（西井達矢）

日本診療放射線技師会（江藤芳浩、鈴木賢昭）

日本放射線影響学会（細谷紀子）

日本放射線技術学会（五十嵐隆元）

日本放射線腫瘍学会（小川和彦）

日本保健物理学会（小野孝二）

日本脳神経血管内治療学会（松丸祐司、盛武敬）

日本乳がん検診精度管理中央機構（斎政廣、西出裕子）

個人会員：

細野眞（代表）、神田玲子（副代表）、山口一郎

オブザーバ：

日本整形外科学会（山下一太）

日本消化器内視鏡学会（竹中完）

厚生労働省（山田貴志、安樂摩美）、他5名

事務局：

QST（赤羽、神田、古場、張、仲田）

４．　議題

（1）前回会合の議事概要（案）の確認

（2）代表・代表代行の選出（審議事項）

（3）団体会員の新規加入について（審議事項）

資料１

（4）J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書について（報告事項）

（5）DRL-WG の活動状況について（報告事項）

（6）会員の活動報告（報告事項）

（7）その他

i. DRL-WG,モダリティ別 PT メンバーの COI 申告について

ii. 総会議事概要の公開について

iii. ICRP2023 について

５．配布資料

資料１　J-RIME 第 14 回総会議事概要(案)

資料２　J-RIME 会則

資料３　J-RIME 団体会員リスト

資料４　J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書

資料５－１　医療放射線防護連絡協議会からの報告資料

資料５－２　日本医学物理学会からの報告資料

資料５－３　日本医学放射線学会からの報告資料

資料５－４　日本医学核医学会からの報告資料

資料５－５　日本画像医療システム工業会からの報告資料

資料５－６　日本歯科放射線学会からの報告資料

資料５－７　日本診療放射線技師会からの報告資料

資料５－８　日本乳がん検診精度管理中央機構からの報告資料

資料５－９　日本放射線影響学会からの報告資料

資料５－１０ 日本放射線技術学会からの報告資料

6. 議事

・ 細野代表より開会の挨拶が行われた。厚生労働省からの出席されている以下の先生の紹介があり、挨拶が行われた。

〇厚生労働省　医政局　地域医療計画課

医療安全推進・医務指導室

医療安全対策専門官

山田　貴志　先生

〇厚生労働省　医政局地域医療計画課

医療放射線管理専門官

安樂　摩美　先生

資料１

（1）前回会合の議事概要（案）の確認

・　第 14 回総会（2022 年 5 月 30 日開催）の議事概要（案）の内容が承認された。

（2）代表・代表代行の選出（審議事項）

・　事務局より資料2の J-RIME 会則に従い、代表および代表代行の選出、任期等の説明が行われた。また、資料3に示す団体会員が参加する総会により承認されることが説明された。
・　今年度から 2 年間の代表として細野氏が推薦され、承認された。
・　細野代表より神田氏が代表代行して推薦され、承認された。

（3）団体会員の新規加入について（審議事項）

・　細野代表より日本整形外科学会、日本消化器内視鏡学会の 2 団体より新規加入の意向を頂いている旨の説明が行われた。
・　日本整形外科学会の山下氏より挨拶と新規加入の意向が示された。
・　日本消化器内視鏡学会の竹中氏より挨拶と新規加入の意向が示された。
・　日本整形外科学会と日本消化器内視鏡学会の新規加入について、異論なく承認された。
・　日本消化器内視鏡学会について学会の意向としては問題ないが、理事会承認の前であるため、理事会承認後に正式な加入とすることとなった。

（4）J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書について（報告事項）

・　事務局より J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書について、これまでの覚書が平成 28 年度から令和 4 年度までであったため、この度令和 5 年度から令和 12 年度までの 7 年間について覚書の更新を行ったの説明が行われた。

（5）DRL-WG の活動状況について（報告事項）

・　赤羽 DRL-WG 主査より以下のような活動状況について説明が行われた。
    - DRL-WG は 1 月 16 日に次期 DRL の改訂に向けた第一回目の会合を開催した。
    - 本人（赤羽氏）が主査として選出された。
    - WG メンバーに加えて日本整形外科学会、日本消化器内視鏡学会についてもオブザーバ参加いただいた。
    - 次回の DRL の改訂時期は 5 年ごとの改訂として 2025 年を目指す。
    - モダリティのグループは前回を踏襲する。治療治療における CT についても盛り込まれる予定であるが、既存のモダリティの枠組みの中で取り扱う。

- 現在モダリティ毎のプロジェクトチームの参加メンバーを各学協会から募集中であり、今後モダリティ毎のプロジェクトチームにて活動を開始する予定である。

（6）会員の活動報告（報告事項）

・ 医療放射線防護連絡協議会（説明者：菊地氏）（資料５－１）
  - 医療放射線安全管理講習会を年 2 回開催し、DRLs2020 の活用を広めた。
  - 年次大会にて我が国の国民線量の算定＊生活環境放射線第 3 版の概要について講演が行われ、医療被ばくについては J-RIME 等のデータを利用して算定された。
  - IVR に伴う放射線皮膚障害の防止に関するガイドラインの改訂を 18 年ぶりに行い、第 44 回医療放射線安全利用フォーラムにおいて赤羽正章先生より IVR における DRL の目的・意義について解説が行われた。

・ 日本医学物理学会（説明者：古場氏）（資料５－２）
  - 医学物理学会誌 2022 年 6 月、９月号にて JSMP 放射線防護委員会企画、学会誌特集「医学物理分野に必要な中性子の基礎知識」を掲載した。
  - 2022 年 4 月に開催された JRC2023, JSMP125 では以下の企画を開催した。
    JSMP 防護委員会合同企画 JSMP 防護委員会企画）「線量評価のための計算用人体ファントムの動向と応用研究」
  - ICRP2023 の開催に合わせて日本核医学学会・日本核医学技術学会との共催のシンポジウムを企画中

・ 日本医学放射線学会（説明者：粟井氏）（資料５－３）
  - 診療用放射線の安全利用に関する研修ビデオを 2022 年 6 月に公開した。申請をすれば無料で利用可能である。
  - 会員を対象として放射線防護関連の教育講演を 2 回開催した。
  - CT における線量管理と診断参考レベル運用の実態調査をホームページで公開した。

・ 日本 IVR 学会（説明者：赤羽氏）
  - 6 月に開催された技術教育セミナーを開催し、その一つで放射線防護を取り上げた。またこの内容を学会誌にレビューとして近く掲載される予定である。
  - 厚労科研内田班の盛武先生の水晶体・皮膚の実態調査が行われ、多くの会員の参加があった。重篤な水晶体の混濁と白内障などはなかった。

・ 日本核医学学会（説明者：森氏）（資料５―４）
  - 令和 4 年 5 月に開催された日本核医学会春季大会にて、「核医学のための診療用放射線の安全利用」の講習を日本核医学技術学会と合同で開催した。
  - DRLs2025 のモダリティ別 PT に、細野氏、沖崎氏、佐々木氏の３名を推薦した。

資料１

- 日本核医学技術学会（説明者：石黒氏）
  - 昨年 11 月の理事会改選に伴い代表が東氏から石黒氏に変更となった。理事長も変更となっている。
  - ICRP2023 のサテライトシンポジウムに共催を行っている。
  - モダリティ別の PT に 4 名参加する予定である。
- 日本医療画像システム工業会（説明者：桑原氏）（資料５－５）
  - 放射線治療装置・核医学装置・放射線線量計に関係する国内外規格の動向について以下の報告が行われた。
  - X 線 CT 装置に関しての基礎安全及び基本性能に関して CD（委員会原案）を作成中
  - RF システム。IVR についてはコメント取りまとめ中
  - マンモグラフィについては国際規格が制定されたことを受けて JIS 改定を今年度実施予定
  - 歯科用については口内、口外ともに JSI の改訂が開始されている
  - 防護材料については JISC 審議会で承認されたため、近々制定予定
  - 放射線治療装置については 2022 年 11 月に制定された。
- 日本歯科放射線学会（説明者：西川氏）（資料５－６）

別途スライド資料を用いて前回、前々回での報告事項のまとめについて説明が行われ、続いて以下の報告が行われた。

  - 2022 年 3 月 31 日に医療用エックス線装置基準が改正され、同日に医療法施行規則が開催された。
  - 改正 JIS はまだ公示されていない。
  - 改正された規格には IEC 規格がそのまま取り入れられた。
  - 施行日は令和 7 年 4 月 1 日ということでまだ猶予期間がある。また、施行日の時点で使用されている装置には新規則は適用しない、として頂けた。
  - 学会のガイドラインの改訂が完成して、学会 WEB ページにアップロードされている。開業歯科医が読む気になる、読んでわかるガイドラインを目標とした。
- 日本小児心臓CTアライアンス（説明者：西井氏）
  - DRLs2025 の CT のプロジェクトチームに参画させていただいた。
  - 独自の小児心臓 CT の被ばく調査を検討していたが、JSRT のプロジェクトチームで行ってみようとなり、その後こちらで行うことを検討している。
- 日本小児放射線学会（説明者：田波氏）
  - 2022 年 6 月 3 日に第 58 回日本小児放射線学会が開催された。毎年恒例のように放射線の被ばくについて講演が行われた。

資料１

- 日本診療放射線技師会（説明者：鈴木氏）（資料５－７）
  - 医療放射線安産管理講習会を年 2 回開催し、被ばく線量の最適化と DRL について最適化の手法と DRL の概念について改めて周知を行った。
  - 2022 年 9 月に第 38 回日本診療放射線技師学術大会が開催され、医療放射線被ばくについての５つセッションが行われた。その中で、日本放射線技術学会との合同の企画も開催した。
  - 医療被ばく低減施設認定の認定施設の更新審査をコロナ禍の影響により訪問審査が難しいためオンラインで行い、7 施設の認定更新が行われた。訪問審査が難しいため新規審査については休止している。
  - DRLs2025 のすべてのモダリティのプロジェクトチームに参加する予定である。
- 日本乳がん検診精管理中央機構（説明者：斎氏）（資料５－８）
  - 日本乳がん検診精管理中央機構ではマンモグラフィ施設に対して、線量評価、画質評価を行い、施設認定を行っている。
  - 昨年度の評価台数は 621 台であり、アナログがなくなり、デジタルが 100%となった。その中でもフラットパネルディテクターを用いた DR が 9 割であった。
  - 施設認定は 90%であった。
  - 令和４年度の平均乳腺線量の平均値は 1.44mGy、95 パーセントタイル値は 2.10mGy であり、昨年度より若干低減傾向にあった。
  - DRL2020 の平均乳腺線量の分布と比較しても、平均値と 95 パーセントタイル値も減少していることが分かる。
- 日本脳神経内治療学会（説明者：松丸氏）
  - JSNET では毎年 11 月に学術集会を開催しており、昨年度も 11 月に大阪で開催した。
  - 医療従事者からいつも質問されることが多い、妊娠と被ばくに関してダイバーシティ委員会と放射線防護委員会で共同企画としてシンポジウムを開催した。応募演題と講師によるミニ講演の第 1 部とミニ講習会の 2 部構成であった。個人線量計の装着、防護装具の徹底的な装着、女性スタッフに関しては妊娠を管理者に伝えやすい職場環境の整備が望まれるという意見があった。
  - IVR プロジェクトチームのメンバーを選定した。
- 日本放射線影響学会（説明者：細谷氏）（資料５－９）
  - 放射線リスク・防護検討委員会と企画委員会では、2023 年度に「ICRP 次期主勧告ウェビナー」を 4 回にわたって開催する。本ウェビナーを通して、放射線防護や ICRP の活動への関心を広げることを考えている。第１回は 4 月 28 日開催し、放射線関連の学会より 300 名近い参加登録があった。

資料１

- 日本放射線技術学会（説明者：五十嵐氏）（資料５－１０）
  - モダリティ別 PT にはすべてのモダリティにメンバーを出している。
  - 4 月の放射線防護フォーラムについて、一般撮影、IVR、マンモグラフィの DRL 改訂について会員から意見や要望を聞くために開催した。秋季大会では残りのモダリティ（核医学、診断透視、CT）について開催し、会員から意見を聞く予定。
  - 第 31 回日本医学会総会 博覧会にて日本放射線技術学会、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本診療放射線技師会にて放射線に関連する展示を実施し、本学会では特に生殖腺シールドに関するパネル展示を行った。
  - 我が国の小児 CT 検査で患児が受ける線量の実態調査班（班長：竹井泰孝）が本年度より活動を開始する。小児 CT の DRL のベースデータとなる調査を行う調査班である。
  - 幼児・小児の撮影線量と画質のバランスに関する検討班（班長：広藤喜章）が本年度より活動を開始する。
  - 日本救急撮影技師認定機構の外傷全 CT の被ばく線量調査 WG に協力する形で調査が実施されている。
- 日本放射線腫瘍学会（説明者：小川氏）
  - 報告事項なし
- 日本保健物理学会（説明者：小野氏）
  - 医療被ばく国民線量評価委員会を立ち上げ、定期的、持続的に国民線量評価を行った行くための仕組みを構築していく。HP に議事録が掲載されている。
  - 昨年 11 月に日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会の合同大会を開催し、その中で、医療被ばく国民線量評価のシンポジウムを開催した。

（7）その他

i. DRL-WG、モダリティ別 PT メンバーの COI 申告について

細野代表より以下のように本議題の背景について説明が行われた。

- 昨今、医療分野で指針等を策定するとき策定メンバーの COI を強く問われる傾向にあり、日本医学会においても COI に関する指針をしっかりと定めている。
- 診療放射線の管理について医療法施行規則に基づき DRL によって診療放射線の管理や記録をするということが示されている。
- このような状況から DRL-WG 等においても従来以上に COI の管理を進めるべきであり、DRL-WG、モダリティ別 PT メンバーの先生方の身を守ることにもなる。

赤羽 DRL-WG 主査より今回の COI の方針について説明が行われた。

- 前回は各人が自己申告書の内容を確認し、COI の有無を WG 主査または PT リーダ

一に回答、COI 有の場合は該当者に自己申告書の提出を求めた。

- 前回の方法は特殊な方法であり、COI がない場合提出していないというのは適切ではないとの指摘を受ける可能性がある。
- 今回は全てのメンバーが COI の有無に関わらず COI の申告を行うのが良いのではないか。

また、細野代表より COI 申告と管理について以下のような方法が提案された。

- COI 管理については日本医学会の COI ガイドラインに準じる。
- DRL-WG,モダリティ別 PT メンバーは全員 COI 申告書を事務局に提出する。
- COI 申告書は事務局が管理する。
- 提出された COI に対して疑義が生じた場合は、J-RIME 代表・代表代行、DRL-WG 主査、事務局担当者にて判断を行う。

ii. 総会議事概要の公開について

事務局より総会議事概要の公開について背景について以下のような説明が行われた。

- 近年の総会の開催方法について新型コロナウイルス感染症対策として WEB 開催としていましたが、団体会員の増加もあり、日程調整・旅費の負担などを考慮し、今後についても WEB 開催とさせていただきたい。
- 一般のオブザーバ参加のための開催案内などは行わないため、議事概要を HP に掲載することとしたい。
- 議事概要の早い公開のため概要確認と確定をメールにて行うこととしたい。
- 過去の議事概要についても掲載を検討したい。

議事概要について早期の確認と HP の公開について承認された。また、過去の議事概要については各学会に一度回覧をお願いし、反対意見等がなければ公開することとした。

iii. ICRP2023 について

神田副代表からスライド資料を用いて ICRP2023 の案内が行われた。ホームページやプログラム案についての説明が行われ、参加登録が呼びかけられた。

- 厚労省山田先生より日本診療放射線技師会の報告の中での医療被ばく低減施設認定の新規申請が中止となっている点について、再開予定などの状況について質問が行われた。
- 日本診療放射線技師会鈴木氏より現段階では再開のめどが立っていないが、委員会の中で訪問審査以外の方法や人数を縮小しての訪問などを検討している。
- 厚労省山田先生より医療被ばく低減施設認定は非常に重要なことであり、感染症の

資料１

数も減ってきているので、ぜひ再開してほしいとのコメントがあった。

厚労省山田先生、安樂先生より本総会についての総括的コメントが行われ、細野代表より閉会の辞が述べられた。

以上

J-RIME団体会員一覧（2024年6月8日現在）

団体会員：J-RIMEの目的に賛同し、この組織の対象とする領域において
専門の学識、技術又は経験を有する団体(会則第3章第4条（1）にて規定)

医療放射線防護連絡協議会	451-0041　愛知県名古屋市西区幅下1-5-17　大野ビル1階
代表者1	佐々木 康人
代表者2	菊地 透
会長	佐々木 康人
連絡先	jarpm@chive.ocn.ne.jp
日本医学物理学会	162-0801　東京都新宿区山吹町358-5　アカデミーセンター（株）国際文献社内
代表者1	古場 裕介
会長	福田 茂一
事務局	jsmp-post@bunken.co.jp
日本医学物理士会	日本医学物理士会　〒162-0801　東京都新宿区山吹町358-5　アカデミーセンター
代表者1	大谷 浩樹
会長	福士 政広
事務局	jcmp-post@bunken.co.jp
日本医学放射線学会	113-0033　東京都文京区本郷5-1-16　NP-2ビル7階
代表者1	平木 隆夫
理事長	青木 茂樹
事務局	office@radiology.or.jp
日本インターベンショナルラジオロジー	〒355-0063埼玉県東松山市元宿1-18-4
代表	赤羽 正章
理事長	山門 亨一郎
事務局	TEL：0493-35-4250　／　FAX：0493-35-4236　office@jsir.or.jp
日本核医学会	113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45　日本アイソトープ協会内
代表者1	馬場 眞吾
理事長	絹谷 清剛
事務局	jsnm@mtj.biglobe.ne.jp
日本核医学技術学会	530-0044　大阪市北区東天満1-11-15　若杉グランドビル別館702号
代表者1	石黒 雅伸
理事長	山本 智朗
事務局	jsnmt-office@umin.ac.jp
日本画像医療システム工業会	112-0004 東京都文京区後楽二丁目5番1号 住友不動産飯田橋ファーストビル1階
代表者1	稲葉 潔
代表者2	長束 澄也
代表者3	山内 宏祥
オブザーバ	丸田裕一
オブザーバ	小田 和幸
会長	山本章雄
事務局	dose-mng-gr@jira-net.or.jp
日本歯科放射線学会	135-0033　東京都江東区深川　2-4-11 一ツ橋印刷（株）学会事務センター内
代表者1	西川 慶一
代表者2	三島 章
代表者3	大髙 祐聖
理事長	金田　隆
事務局	jsomr@onebridge.co.jp
日本消化器内視鏡学会	101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-1 新御茶ノ水アーバントリニティビル4F
代表者1	竹中 完
理事長	田中 信治
事務局	電話：03-3525-4670 / FAX：03-3525-4677
日本小児心臓CTアライアンス	〒113 - 8655　東京都文京区本郷7-3-1
代表	竹井 泰孝
事務局	

日本小児放射線学会	355-0055 埼玉県東松山市松風台4-62　メディカル教育研究社内
代表者1	田波 穣
理事長	小熊　栄二
事務局	office@jspr-net.jp
日本診療放射線技師会	105-6131　東京都港区浜松町　2-4-1　世界貿易センタービル31階
代表者1	江藤 芳浩
代表者2	鈴木 賢昭
会長	上田 克彦
事務所	info@jart.or.jp
日本整形外科学会	113-8418　東京都文京区本郷2丁目40番8号
代表者1	山下 一太
理事長	中島 康晴
事務局	
日本乳がん検診精度管理中央機構	〒460-0002 名古屋市中区丸の内2丁目12番26号 丸の内セントラルビル　7階
代表者1	斎 政博
代表者2	西出 裕子
理事長	横江 隆夫
事務局	TEL:052-219-8166 / FAX:052-219-8165
日本脳神経血管内治療学会	〒160-0016東京都新宿区信濃町35信濃町煉瓦館(一財)国際医学情報センター内
代表者1	松丸 祐司
代表者2	盛武 敬
理事長	宮地 茂
事務局	jsnet@imic.or.jp
日本放射線影響学会	633-0091　奈良県桜井市桜井52－1
代表者1	田代 聡
会長	田代 聡
事務局	jrrs-jim@nike.eonet.ne.jp
日本放射線技術学会	600-8107 京都市下京区五条通新町東入東錺屋町167ビューフォート五条烏丸3階
代表者1	五十嵐 隆元
代表理事	石田 隆行
事務局	office@jsrt.or.jp
日本放射線腫瘍学会	〒104-0031　東京都中央区京橋1-4-14 TOKIビル5階 Tel:03-3527-9971　Fax:03-3527-99
代表者1	小川 和彦
理事長	宇野 隆
事務局	jastro-office@jastro.jp
日本保健物理学会	〒105-0004 港区新橋3-7-2 吉松ビル 3F　株式会社国際広報企画内
代表者1	小野 孝二
代表理事	吉田 浩子
事務局	exec.off@jhps.or.jp

資料2ー2

2024 年 3 月 25 日

医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）
代表　細野　眞　様

一般社団法人日本消化器がん検診学会
理事長　大西　洋英

団体会員への新規加入についいて【お願い】

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本会は、消化器がん検診に関する学術の進歩と正しい検診方法の普及を図り、広く人類の福祉に貢献することを目的とする学術研究団体です。この度、胃 X 線検診における診断精度と線量の最適化を目指した調査研究を実施するにあたり、貴会における診断参考レベル（DRL）の取り組みについてご指導ご助言を賜りたく、貴会団体会員への加入を申請したいと存じます。

何卒ご検討の程、よろしくお願い申し上げます。

記

設　立：1959 年　「胃癌研究連絡会」として発足
代表者：理事長　大西　洋英（労働者健康安全機構　総括ディレクター）
役　員：理事長 1 名、副理事長 1 名、理事１４名、監事 3 名、代議員 142 名
（2024 年 3 月 21 日現在）
法人格：一般社団法人（1969 年 6 月 9 日認可、その後、2013 年一般社団法人へ移行）
主活動：　機関誌及び学術研究図書等の刊行
消化器がん検診に関する実態調査及び研究の奨励、業績の表彰
国際的な研究の奨励及び助成
消化器がん検診認定医（専門医）及び指導医・指導施設の認定並びに専門技師の認定
消化器がん検診に関する社会への啓発活動
事務局：〒112-0014　東京都文京区関口 1-19-2　第 2 弥助ビル 3 階
TEL：03-3235-6754　FAX：03-3235-7647　E-mail：info@jsgcs.or.jp
担当者：加藤勝章（宮城県対がん協会がん検診センター所長）
（会役職：理事、胃がん検診精度管理委員会担当理事）
見本真一（神奈川県予防医学協会放射線技術部長）
（会役職：検診従事者委員会委員）

以上

資料３

J-RIME HP の移設について

J-RIME 事務局

１．経緯

・ 2024 年 1 月 11 日より J-RIME HP の公開に使用しているサーバーの問題により、HP の公開を停止した。

・ 当該サーバーが使用できなくなったため、移設先の検討に時間を要し、新規サーバーにて 4 月 23 日に HP の再公開を行った。

２．URL について

・ 変更前の URL

http://www.radher.jp/J-RIME/

・ 変更後の URL

https://j-rime.qst.go.jp/

・ 注意点

上記の URL 変更に伴い、診断参考レベルの報告資料の URL も変更となっているので、論文引用の際には注意。

現在の HP 外観

資料４－１

J-RIME 第 16 回総会資料（Web 会議）　：2024 年 6 月 10 日（月）

「医療放射線防護連絡協議会からの令和 5 年度活動報告」

医療放射線防護連絡協議会
会長　菊地　透

1．　J-RIME DRLs2020 に関連して

医療放射線安全管理講習会（厚生労働省及び日本医師会からの後援）を、WEB 開催で第 75 回（2023年 10 月 14 日）と第 76 回（2023 年11月 11 日）行い、総参加者 491 名を得て DRLs2020 の活用について紹介した。

特に、当協議会発行の「医療領域の放射線管理マニュアル＊Q&A・医療関係法令＊」の改訂第 7 版（2023 年 9 月）を参加者全員に資料配布し、患者線量の記録義務化と、ほかの放射線診療においても患者線量の記録が望ましく、放射線検査の最適化について、J-RIME DRLs 2020 の利用を奨励した。

2．　医療領域の放射線管理マニュアル＊Q&A・医療関係法令＊改訂第 7 版の発行

医療法施行規則改正による医療放射線に係わる安全管理体制保、電離放射線障害防止規則改正、放射線診療技師法改正及び RI 法改正等ついて、医療の放射線安全管理・放射線防護に対応した改訂版を編集・発行した。（2023 年 9 月 29 日）

改訂版では、新たに患者線量の記録義務化と、ほかの放射線診療においても患者線量の記録が望ましく、医療被ばくの線量管理の関連学会等のガイドラインと、J-RIME DRLs2020 の利用も掲載した。

なお、医療放射線安全管理講習会において、菊地が当該改訂版マニュアルを参加者全員に資料配布し紹介した。また、当該マニュアルは一般図書取次店で販売を行っている。

3．　その他

1）DRLs2020 を取り入れた、改訂版「医療領域の放射線管理マニュアル＊Q&A・医療関係法令＊」〈2023年 9 月〉を発行し、頒布・普及に努めた。

2）J-RIME の DRL-WG へ、大野和子、長畑智政が参加し次期改訂活動に協力した。

以上

資料４－２

J-RIME 第 16 回総会

日本医学物理学会 活動報告

2024 年 6 月 10 日

日本医学物理学会 放射線防護委員長 古場裕介

- JSMP127 における委員会企画

  JSMP127 において JSRT との合同企画として以下のテーマ、演者の講演企画を行った。

  企画テーマ：医療従事者の被ばく低減のためのマネジメントシステム　～ 眼の水晶体の被ばくに対する取組 ～

  講演 1　講演者：盛武敬 先生

  タイトル：職業被ばく管理の法的解釈を再確認する

  講演 2　講演者：中上晃一 先生

  タイトル：ICRP publication 75 を具体化した放射線防護マネジメントシステム

- ICRP2023 サテライトイベント

  2023 年 11 月 16 日に核医学学会・核医学技術学会との合同で ICRP2023 サテライトイベントとして JSMP-JSNMT-JSNM 合同シンポジウム、招待講演 3 件を開催した。（詳細別紙）

ICRP サテライトイベント JSMP-JSNMT-JSNM 合同シンポジウム
11 月 16 日（木） 15:20～17:50 第 1 会場
後援：日本放射線腫瘍学会
医療の発展に向けた放射線防護
座長： 工藤 崇（長崎大学）、東 達也（量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所）
Part 1 英語 （同時通訳予定）

1. The ICRP's review of the system of radiological protection: New science, ethical expectations, and applications in imaging and therapy
   Kimberly E. Applegate（University of Kentucky College of Medicine, Professor of Radiology and Pediatrics (retired)）
2. The Future of Radionuclide Therapy including PRRT in Europe
   Bernd J. Krause（Director of Nuclear Medicine, Department of University Hospital Rostock）
3. Future of Radionuclide Therapy Including PRRT in Asia
   Keon Wook Kang（Department of Nuclear Medicine, Seoul National University College of Medicine, Seoul National University, Republic of Korea）

Part 2 日本語

4. 核医学治療に係る政策及び法令の現状・課題・展望
   稲木 杏吏（国立がん研究センター 先端医療開発センター 機能診断開発分野）
5. 排気および排水管理の現況と課題
   尾川 松義（横浜市立大学附属病院 放射線部／東北大学医学部 保健学科画像解析学）
6. 核医学治療の品質管理および品質保証に関する Dosimetry と公衆を含めた被ばく線量管理について
   右近 直之（福島県立医科大学 先端臨床研究センター）

共催：日本核医学会／日本核医学技術学会／日本医学物理学会／ノバルティス ファーマ株式会社

ICRP サテライトイベント招待講演 01-03
11 月 16 日（木）第 1 会場
招待講演 01 10:40～11:40 英語
ICRP サテライトイベント JSMP-JSNMT-JSNM 企画
座長： 米倉 義晴（大阪大学 放射線科学基盤機構）
Radiation Dose to Patients in Diagnostic Nuclear Medicine
Augusto Giussani（Federal Office for Radiation Protection External and Internal Dosimetry, Biokinetics）
招待講演 02 14:00～14:30 英語
ICRP サテライトイベント JSMP-JSNMT-JSNM 企画
座長： 大野 和子（京都医療科学大学）
Initiatives for Nuclear Medicine in ICRP
Jin Chul Paeng
（Department of Nuclear Medicine, Seoul National University College of Medicine; Member of Committee 3 (Radiological Protection in Medicine) International Commission on Radiological Protection）
招待講演 03 14:50～15:20 英語
ICRP サテライトイベント JSMP-JSNMT-JSNM 企画
座長： 絹谷 清剛（金沢大学 医薬保健研究域医学系核医学）
Recent developments and future challenges for ICRP Committee 3
David Sutton（Secretary, ICRP Committee Three）

資料４－３

公益社団法人 日本医学放射線学会 2023 年度活動報告

日本医学放射線学会
放射線安全管理委員会委員長
平木隆夫

1. JRS 会員向けの「診療用放射線の安全利用に関する研修ビデオ」の配布

2023 年度改訂版を公開した（2023 年 4 月 27 日）。2023 年度は JRS 会員 330 名より研修ビデオの利用申請があり、全員に無償で配布を行った。ビデオの内容は下記の通り。

1. 総論標準版（時間 30 分 24 秒）
2. 総論短縮版（時間 15 分 30 秒）
3. 各論 1: 医療被ばくの基本的な考え方（時間 15 分 23 秒）
4. 各論 2: 放射線診療の正当化と最適化（時間 15 分 14 秒）
5. 各論 3: 放射線診療の線量管理と最適化（時間 15 分 29 秒）
6. 各論 4: 過剰被ばくその他の事例発生時の対応（時間 15 分 00 秒）
7. 各論 5: 医療従事者と患者間の情報共有（時間 15 分 46 秒）

2. 日本医学放射線学会での教育講演・シンポジウムの実施

◯本学会の会員を対象に放射線防護関連の教育講演を計 2 回実施した。

1. 第 82 回日本医学放射線学会総会（2023 年 4 月 15 日、横浜）
   講演名「福島第一原子力発電所事故による放射線被ばくのレベルとその影響」、座長　平川雅和、講師　山本尚幸
   第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会（2023 年 9 月 15 日、徳島）
   講演名「放射線疫学の基礎と最近の動向」、座長　松田　恵、講師　小笹晃太郎

◯第 82 回日本医学放射線学会総会にて、「医療現場の放射線安全」と題するシンポジウムを開催した（2023 年 4 月 16 日、横浜））。
座長・内容・演者は下記の通り。
座長：井上優介、大野和子
1. 診断参考レベル（DRLs）　細野　眞
2. 不要な被ばくを避けて行う最適な小児画像診断の進め方　相田典子
3. IVR の放射線被ばくと防護（患者・作業者を含む）　赤羽正章
4. 医療分野における放射線業務従事者の放射線管理　欅田尚樹

2. DRL’s 2025 に向けての活動

◯すべてのプロジェクトチームに 2 名ずつ委員を派遣した。
◯一般撮影、CT、診断透視、IVR、マンモグラフィのプロジェクトチームに対して、日本医学放射線学会より調査費用の援助を行うことを理事会で決定した。

資料４－４

2024 年 J-RIME 第 16 回総会　JIRA 報告

一般社団法人 日本医療画像システム工業会
放射線・線量委員会
委員長　長束 澄也

医用画像診断装置 及び 放射線治療装置・核医学装置・放射線線量計に関係する国内外規格の動向について、前回報告(2023 年 5 月 8 日)以降の状況を報告する。

1. IEC 及び JIS の動向
   (1) 通則・副通則
      - Ed.4 では、現在の副通則が通則に取り込まれることになり、全体の設計仕様が決まったため、12 の Working Group が活動を始めた。
      - 今後の計画は CD: 2025-03-27、CDV: 2026-06-05、FDIS: 2029-01-04、IS: 2029-04-06
   (2) X 線 CT 装置
      (a) IEC 60601-2-44 Ed.4：X 線 CT 装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
         - IEC61223-3-5 Ed.2（受入・不変性試験）及び IEC62985 Ed.1（SSDE 計算法）の要求事項、最新の技術／機能を盛り込む（CD 作成中）。
      (b) IEC 63483 Ed.1：X 線 CT 装置スペクトラル画像の性能評価方法
         - NWIP が承認され、Working Draft 作成中（CD：2024/4　CDV：2024/10　IS：2026/10）
   (3) X 線透視撮影装置
      (a) IEC 61223-3-8 Ed.1：IVR を含む透視・撮影装置の受入・不変性試験
         - 2024 年 3 月 26 日に制定された（今後 JIS 作成予定）。
      (b) IEC 60601-2-54 Ed.2：X 線撮影及び透視用機器の基礎安全及び基本性能の個別要求事項
         - JIS 改正を 2023 年度に行い、2024 年 2 月末に最終原案を日本規格協会へ提出した。
   (4) IVR 用 X 線装置
      (a) IEC 61223-3-8 Ed.1：IVR を含む透視・撮影装置の受入・不変性試験
         - 2024 年 3 月 26 日に制定された（今後 JIS 作成予定）。
      (b) IEC 60601-2-43 Ed.3：IVR 用 X 線装置の基礎安全と基本性能に関する個別要求事項
         - 2022 年 12 月 5 日制定された（今後 JIS 作成予定）。
         - なお、通則 Ed.3.2 及び IEC60601-2-54 Ed.2 への対応であり、 IVR 用 X 線装置としての技術的な変更はない。
   (5) 乳房 X 線撮影装置
      (a) IEC 60601-2-45 Ed 3.2：乳房用 X 線装置及び乳房撮影定位装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
         - JIS 改正を 2023 年度に行い、2023 年 11 月末に最終原案を日本規格協会へ提出した。
      (b) JIS Z 4752-3-6：受入試験及び不変性試験－乳房用トモシンセシス操作モードに使用される乳房用 X 線装置の画像性能
         - 2023 年 5 月 26 日に制定された。
   (6) 歯科用 X 線装置
      (a) JIS T 60601-2-63：歯科口外法用 X 線装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
         - 2024 年 2 月 25 日に制定された。
      (b) JIS T 6060-1-2-65：歯科口内法用 X 線装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
         - 2024 年 2 月 25 日に制定された。
      (c) JIS Z 4752-3-7：歯科用ＣＢＣＴ装置の受入試験及び不変性試験
         - 2023 年 3 月 7 日に JISC 審議会が開催され、当日コメントへの対応も完了しているため、近々に制定される見込みである。
   (7) 放射線防護材料・用品
      (a) JIS T 61331-1：診断用 X 線に対する防護用具―第 1 部：材料の減弱特性の決定方法
         - 2023 年 5 月 26 日に制定された。
         - JIS Z 4501　X 線防護用品類の鉛当量試験方法とスコープが一部重複するため、次回の JIS 5 年見直し時に JIS Z 4501 を改正する予定である。
   (8) 画像表示装置

(a) JIS T 62563-1　医用電気機器―医用画像表示システム―第 1 部：評価方法
- 2024 年 2 月 25 日に制定された。

(b) JIS T 62563-2　医用電気機器―医用画像表示システム―第 2 部：受入試験及び不変性試験
- 2024 年 2 月 25 日に制定された。

(9) 放射線治療装置

(a) IEC 60601-2-64 Ed.1.1　軽イオンビーム医用電気機器の基礎安全及び基本性能の個別要求事項
- IEC 62667 性能特性及び通則との整合化、照射野外放射線および ME システムに関する規定改訂のため、日本が Project Leader として CDV に対するコメントを審議中（IS 2025-10-31）

(10) 中性子補足治療装置

(a) IEC 60601-2-93 Ed.1　中性子捕獲治療機器の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項
- 日本が Project Leader として CD に対するコメントを審議中（IS 2025-07-31）

2. その他トピック

(1) SC62B/WG54 の設立
- SC62B 傘下の WG 37 及び MT 41 を解散して新しく WG 54「診断またはインターベンショナ ル手技用の X 線撮影装置および X 線透視装置」を設立することが決まった（62B/1350/RQ）。
- これに伴い、IEC ミラー委員会として IEC ドキュメントを審議する JIRA の技術専門委員会も体制を見直す。

以上

資料４－５

J-RIME 第 16 回総会資料
NPO 法人日本歯科放射線学会 2023 年度活動報告

◇ 「携帯型口内法Ｘ線装置による手持ち撮影のためのガイドライン」（2017 年 10 月公開）を改定した「携帯型口内法Ｘ線装置による手持ち撮影のためのガイドライン 2023 年改定版」（2023 年４月公開）の内容を日本歯科放射線学会員に周知するため、学会発表を行った。

大髙祐聖 他

携帯型口内法Ｘ線装置による手持ち撮影のためのガイドライン（2023 年改訂版）に関する報告

日本歯科放射線学会第４回秋季学術大会　2023 年 11 月４日　於 大阪

◇ 日本歯科放射線学会防護委員５名が、日本画像医療システム工業会標準化委員会 SC-2206（歯科用Ｘ線装置）の委員として、JIS 原案（本文および解説）の作成に参画した。

Ｚ 4752-3-7（IEC 61223-3-7：2021）

医用画像部門における品質維持の評価及び日常試験方法ー第 3-7 部：受入試験及び不変性試験ー歯科用 CBCT 装置の画像性能

※ 改正 JIS の発行

1) JIS T60601-2-63：2024

（IEC 60601-2-63：2012＋AMD1：2017＋AMD2：2021）

医用電気機器ー第２ー63 部：歯科口外法用Ｘ線装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項

最新改正年月日：2024 年２月 25 日

2) JIS T60601-2-65：2024

（IEC 60601-2-65：2012＋AMD1：2017＋AMD2：2021）

医用電気機器ー第２ー65 部：歯科口内法用Ｘ線装置の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項

最新改正年月日：2024 年２月 25 日

資料４－６

第 16 回　J-RIME 総会資料
（公社）日本診療放射線技師会

活動報告
＜2023 年度＞
1. 診療放射線技師の業務拡大に伴う統一講習会および告示研修の開催
（1）平成 26 年 6 月の診療放射線技師法の一部改正に伴う業務拡大に伴う統一講習会を全国 7 地域で 8 回実施した.（237 名修了）
（2）診療放射線技師の業務拡大に伴う告示研修を実施した.
実技研修は 281 回実施し 22,714 名修了.

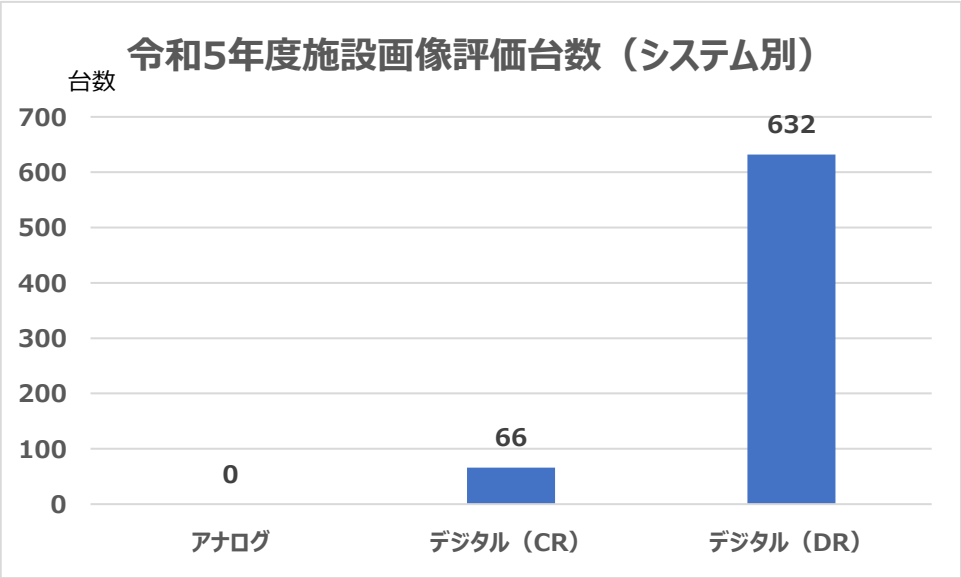
2. 第 39 回日本診療放射線技師学術大会　令和 5 年 9 月 29 日（金）から 10 月 1 日（日）までの 3 日間，熊本県にて開催した.
(1)日放シンポジウム　医療被ばく安全管理委員会
シンポジウムテーマ「放射線生物学 Up to date～放射線発がんに関する最新の知見～」
「発がんの幹細胞生物学」
大分県立看護大学 環境保健学研究室　小嶋光明先生
(2)分科会企画
●放射線被ばく相談員分科会「被ばく相談窓口の解説と継続-その工夫と課題-
●放射線管理士分科会　「各地域の放射線管理士の活動報告とこれからの課題」
（3）学会企画
●日本放射線カウンセリング学会「傾聴訓練（傾聴トレーニング）を体験する」
●日本放射線公衆安全学会「20 周年記念講演会」
（4）KART 企画
線管理「熊本県放射線技師会における一般撮影用線量計運用報告」
3. 医療被ばく低減施設認定更新審査と新規審査の試験的再開
・39 施設に対しオンライン更新審査を行った
・Web による書類審査と訪問審査の併用により訪問サーベイヤー人数を縮小して新規認定審査を開始した。
4. 放射線被ばく相談に関する事業
JART 医療被ばく個別相談センターに寄せられた 49 件の相談に対応した.

資料4－7

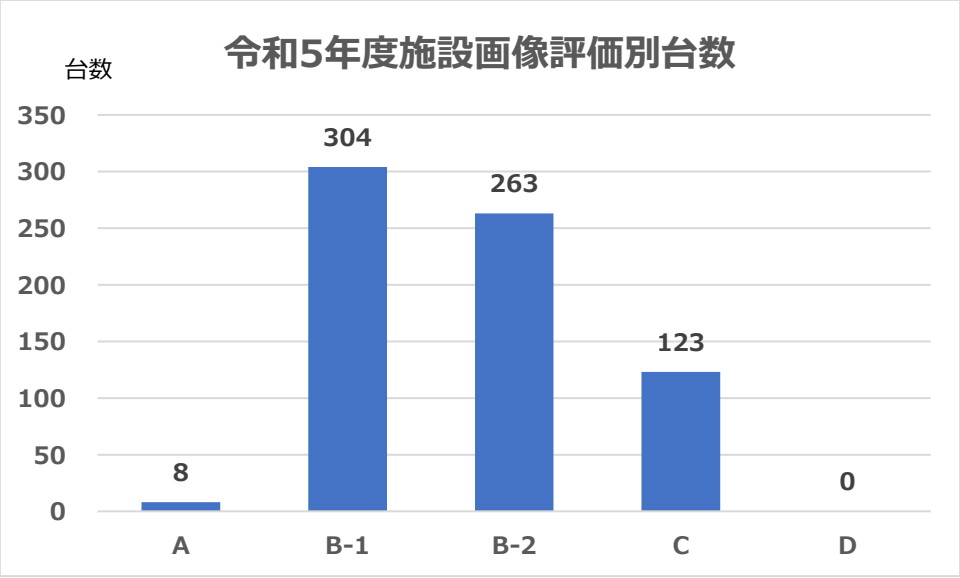
令和 6 年 6 月 10 日

NPO 法人　日本乳がん検診精度管理中央機構　活動報告

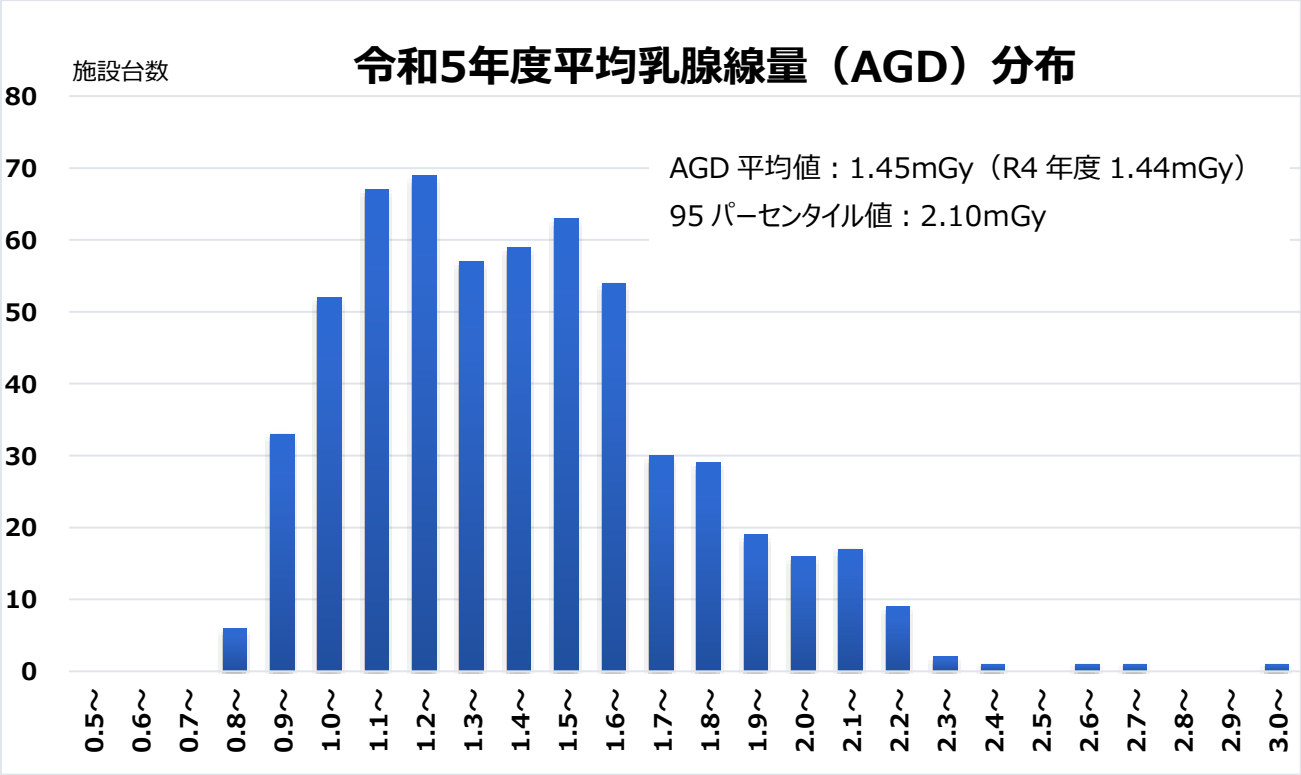
令和 5 年度のマンモグラフィ施設・画像評価の報告（評価述べ台数 698 台：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）を下記にいたします。
デジタルシステムは 100%、特に DR システムの導入が著しい（90.5%）。



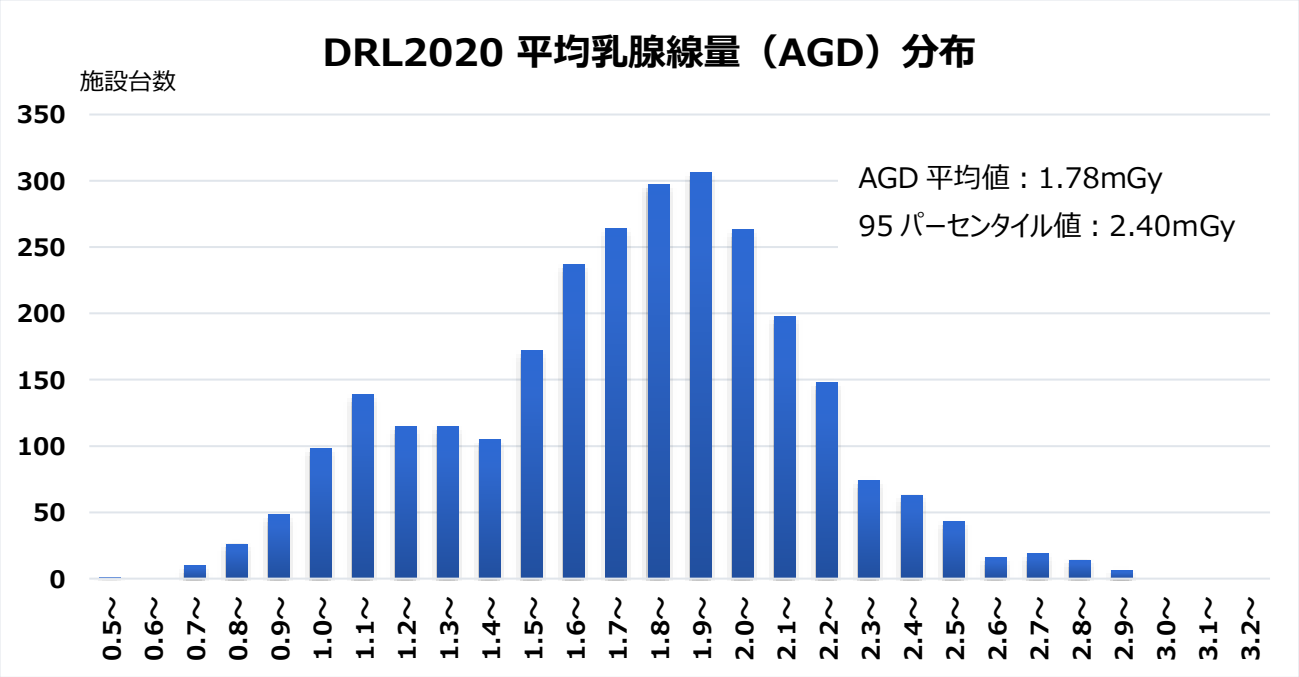
施設認定は A、B-1、B-2 評価で、認定率は 82.4%であった。



令和 5 年度施設画像評価データからの平均乳腺線量の分布を下記に示します。
平均乳腺線量の平均値は 1.45mGy、95 パーセンタイル値は 2.10mGy であった。
昨年度と比較するとほぼ同等であった。



DRL 2020（マンモグラフィ）の平均乳腺線量分布と比較すると、平均値および 95 パーセンタイル値とも減少している。フラットパネルを搭載した DR システムへの移行に伴うシステム線量の低減化によるものと思われる。



資料４－８

日本脳神経血管内治療学会活動報告

（報告者）
日本脳神経血管内治療学会
放射線防護委員会
委員長　松丸祐司
於、第 16 回 J-RIME 総会（Web 開催 2024 年 6 月 10 日）

学会員らの被ばく防護のへの関心を高め効果的な対策を図るため、放射線防護委員会企画による放射線防護セミナー、放射線技術部会企画による放射線技師シンポジウムを開催した。

第 39 回 JSNET 学術集会（国立京都国際会館 2023 年 11 月 23-25 日）

1. 放射線防護委員会企画　放射線防護セミナー　日常業務での術者被ばくを再考する

11 月 25 日（土）7:00-8:00

医療従事者の職業被ばく防護への関心を高め、適切な防護策がとれるようになることを目指し、放射線防護委員会企画として放射線防護セミナーを開催した。昨年のシンポジウムのテーマであった「医療従事者の妊娠と被ばく」に関する理解をさらに深めるため、女性医師側と放射線管理者側の両者の立場から、具体的に注意しておくべき点に触れた講演内容は好評であった。

座長：筑波大学　脳神経外科　松丸祐司
　　久留米大学　医学部放射線医学教室　田上秀一

（演題 1）術者の健康を守るための法体系

演者：量子科学技術研究開発機構　放射線医学研究所　放射線規制科学研究部　盛武　敬

（演題 2）女性術者の安全で安心な放射線診療を行うための放射線防護

演者：順天堂大学　保健医療学部　診療放射線学科　坂本　肇

（演題 3）術者水晶体線量の臨床現場での管理と放射線防護

演者：虎の門病院 放射線部 川内 覚

２．放射線技師シンポジウム２　脳血管内治療における被ばく管理

11 月 25 日（土）10:00-11:15

脳血管内治療における回転撮影での線量管理の考え方と実践、各施設における線量管理の状況報告、DRLs2020 改訂のための多施設手技別の線量調査の報告など、医療放射線の安全利用のために線量管理と記録が法的に義務化されている現状において有意義なシンポジウムであった。

座長：松本　一真（兵庫医科大学病院放射線技術部）
　　西條　貴哉（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院医療技術部放射線科）

（演題 1）これからの「回転撮影における線量管理」の話をしよう

演者：川内　覚（虎の門病院放射線部）

（演題 2）脳血管内治療における被ばく管理 ～愛知医科大学病院の取り組み～

演者：大澤　充晴（愛知医科大学病院中央放射線部）

（演題 3）脳血管内治療における被ばくの現況と管理

演者：山田　雅亘（国立循環器病研究センター放射線部）

（演題 4）DRLs2020 改訂のための脳血管 IVR における多施設手技別線量調査

演者：先山　耕史（昭和大学保健医療学部大学院保健医療学研究科）

資料4－9

日本放射線技術学会　活動報告

紙面の関係上、放射線防護に関連する事業の中で主だったものを記載した。

1.　第 51 回日本放射線技術学会秋季学術大会（名古屋国際会議場）

【放射線防護フォーラム】2023 年 10 月 27 日（金）

司会　国際医療福祉大学成田病院　五十嵐隆元

司会　福島県立医科大学　広藤喜章

「DRLｓ2025 設定に向けてーDRLｓ2020 の振り返りー」

CT について　金沢大学　松原孝祐

核医学について　神戸常盤大学　對間博之

診断透視について　千葉大学医学部附属病院　加藤英幸

【放射線防護部会】2023 年 10 月 27 日（金）

教育講演

司会　東千葉メディカルセンター　伊藤　肇

「水晶体被ばく防護の現状と対策」　東北大学大学院　千田浩一

シンポジウム

座長　鹿児島医療センター　宮島隆一

座長　鳥取大学医学部附属病院　田中拓郎

「電離放射線障害防止規則改定後の放射線業務従事者の被ばく管理について」

電離放射線障害防止規則改正前後での個人被ばく線量管理の変化

株式会社千代田テクノル　犬飼　裕司

ポケット線量計を用いた不均等被ばく管理の問題点　川崎医療福祉大学　竹井泰孝

血管造影領域における水晶体被ばく管理　横浜市立大学附属病院　陣野豊

消化管・整形領域における水晶体被ばく管理　産業医科大学病院　中上晃一

【計測部会】　10 月 28 日（土）

教育講演

司会　東京慈恵会医科大学　葛飾医療センター　庄司友和

「これからの診断透視検査における線量管理を考える」　順天堂大学　坂本　肇

シンポジウム

司会　東京慈恵会医科大学　葛飾医療センター　庄司友和

司会　天理よろづ相談所病院　紀太千恵子

「X線透視装置の線量測定」

C アーム式 X 線透視装置　九州大学病院　宮崎仁志

オーバーテーブル式X線透視装置　金沢大学附属病院　能登公也

アンダーテーブル式 X 線透視装置　東京慈恵会医科大学附属病院　大塚郭貴

【関係法令フォーラム】2023 年 10 月 27 日（金）

司会　日本赤十社　和歌山医療センター　荒井一正

司会　東京都福祉保健局　小林　剛

「測定の信頼性確保のための RI 規制法改正とこれからの放射線管理測定」

放射線の量等の測定の信頼性確保のための RI 規制法施行規則の改正　原子力規制庁　深野重男

医療現場で求められる対応と注意点　大阪急性期・総合医療センター　谷　正司

【専門部会講座（放射線防護部会）入門編】　2023 年 10 月 29 日（日）

座長　筑波大学　森祐太郎

「放射線防護体系―基本的な考え方と国内外の主な組織―」　福島県立医科大学　大葉　隆

【専門部会講座（放射線防護部会）専門編】　2023 年 10 月 29 日（日）

座長　神戸常盤大学　木村英理

「 放射線災害―医療対応について―」　広島大学病院　西丸英治

2.　第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会（パシフィコ横浜）

【放射線防護フォーラム】2024 年 4 月 13 日（土）

一般撮影の線量管理に面積線量計の活用を考える

司会　国際医療福祉大学成田病院　五十嵐隆元

司会　福島県立医科大学　広藤喜章

①　面積線量計の普及状況について　Ｊｐｉジャパン株式会社 良知義晃

②　一般撮影領域における面積線量計を用いた被ばく線量管理についての検討

富士フイルムメディカル株式会社　中野伸哉

③　面積線量を用いた線量管理の期待と課題　金沢大学附属病院　能登公也

④　面積線量計の基礎　九州大学病院　宮崎仁志

【放射線防護部会】　2024 年 4 月 13 日（土）

教育講演 （放射線防護部会）　4 月 13 日（土） 14:20～15:10 （F203+204 室）

司会　藤田医科大学　小林　正尚

ICRP Pub.147「放射線防護における線量の使用」と医療における放射線防護のあり方

日本文理大学　甲斐　倫明

ICRP 勧告 147「放射線防護における線量の使用」を受けた今後の放射線防護のあり方

司会　国際医療福祉大学成田病院　五十嵐隆元

司会　北海道科学大学　吉井勇治

①　医療被ばくと実効線量　川崎医療福祉大学　竹井泰孝

②　計算用人体ファントムを利用した線量評価　量子科学技術研究開発機構　古場裕介

③　どうなる！今後の個人被ばく線量測定と管理-個人線量測定機関協議会の見解-

株式会社 千代田テクノル　篠﨑和佳子

④　どのように備える！新しい線量体系の検討をむかえるにあたり必要なこと

日本原子力研究開発機構　谷村嘉彦

【関係法令フォーラム】　4 月 12 日（金）

放**射線業務従事者の登録・管理の整理と在り方について**

司会　日本赤十社　和歌山医療センター　荒井一正

司会　帝京大学医学部附属溝口病院　平木仁史

① 放射線業務従事者登録の国際動向　国立保健医療科学院　山口一郎

② 血管造影現場での放射線業務従事者登録例　秋田県立循環器・脳脊髄センター　加藤　守

③ 放射線治療現場での放射線業務従事者登録例

日本放射線治療専門放射線技師認定機構　成田浩人

【専門部会講座（放射線防護部会）入門編】　2024 年 4 月 13 日（土）

司会　国際医療福祉大学成田病院　五十嵐隆元

「「代表値」は最適化への道しるべ　～基礎から学ぶ診断参考レベル～」　金沢大学　松原孝祐

【専門部会講座（放射線防護部会）専門編】　2024 年 4 月 12 日（金）

司会　鳥取大学医学部附属病院　田中拓郎

「原子力災害における住民避難とその課題」　福島県立医科大学　大葉隆

3.　市民公開講座の開催　2023 年 7 月 17 日（月・祝）Web 開催（ライブ配信）

「医療放射線による生殖腺被ばくを考える～安心して検査を受けていただくために～」

司会　金沢大学　松原孝祐

【第 1 部】生殖腺被ばくに関する現在の取り組み

講演 1　放射線による生殖腺への影響　福島県立医科大学　広藤喜章

講演 2　生殖腺プロテクターが使われてきた経緯　川崎医療福祉大学　竹井泰孝

講演 3　生殖腺プロテクター使用に関する国内外の動向　名古屋大学　川浦稚代

講演 4　国内における生殖腺プロテクター使用の実態　茨城県立こども病院　本元強

【第 2 部】これからの生殖腺防護について考える

講演 5　生殖腺プロテクターによる診断上の問題が生じた事例　国立成育医療研究センター　宮嵜　治

講演 6　「小児股関節撮影における生殖腺防護検討班」の活動について　兵庫県立西宮病院　廣瀬悦子

講演 7　生殖腺被ばくに関するお問い合わせの事例　国際医療福祉大学成田病院　五十嵐隆元

【第 3 部】質疑応答

4.　7th ICRP International Symposium satellite event　2023 年 11 月 12 日（日）

JART と共同開催

1　Keynote Lecture

Chair: Kosuke Matsubara (Kanazawa University, Japan)

“ Ethical values, tolerability and reasonableness in the aspects of gonadal shielding in radiology ”

Marie Claire Cantone (University of Milan, Italy)

2　Symposium

Chairs: Hironobu Tomita (Teikyo University, Japan)

Takayuki Igarashi (IUHW Narita Hospital, Japan)

“ Gonadal shielding in radiology: How do we make decisions while understanding ethical issues? ”

1) Perspectives on the unnecessity of gonadal protection from the history of radiation health effects

Yoshiaki Hirofuji (Fukushima Medical University, Japan)

2) Guidance on using gonad shielding on patient for diagnostic radiology from Japanese Society of Radiological Technology

Yasutaka Takei (Kawasaki University of Medical Welfare, Japan)

3) The issues of discontinuing gonadal shielding from the perspective of facilities optimizing medical exposure dose

Yoshiaki Suzuki (Bellland General Hospital, Japan)

4) Can gonadal shielding be abolished response in the medical field

Takeshi Sasaki (Ageo Central General Hospital, Japan)

5. セミナーの開催

① 第 4 回放射線影響と防護量の考え方を学ぶ Web セミナー　2023 年 6 月 4 日

Web 開催　参加者数： 62 名

「放射線影響に関する最近の話題－医療被ばくから福島野生動物への影響調査－」

福島県立医科大学　有吉健太郎

「医療被ばくにおける実効線量の正しい使い方」　福島県立医科大学 広藤喜章

② 第 2 回“ 伝わる ”医療被ばく相談実践セミナー　2023 年 7 月 9 日

Web 開催　参加者数： 15 名

「医療被ばく相談に必要な基礎知識」　筑波大学 森 祐太郎

「医療被ばくのリスクコミュニケーション」　福島県立医科大学 広藤 喜章

「今知っておくべき放射線防護の最前線」　川崎医療福祉大学 竹井 泰孝

「リスクコミュニケーションに役立つ心理学―ソーシャルスタイルと対人認知―」

アイスブレイク（グループワーク）「ソーシャルスタイル―あなたは何タイプ？」

神戸常盤大学 木村 英理

グループディスカッション「事例検討」

③ 第 5 回放射線影響と防護量の考え方を学ぶ Web セミナー　2023 年 12 月 17 日

Web 開催参加者数： 46 名

「放射線影響に関する最近の話題：－原爆被爆者研究の最近の結果から－Preston et al. 2007 からの変化」　放射線影響研究所疫学部　坂田 律

「医療被ばくにおける実効線量の正しい使い方」　東北大学大学院医学系研究科 稲葉洋平

資料４－１０（差替え）

一般社団法人 日本保健物理学会

令和 5-6 年度の医療被ばくに関する活動について

1. 日本保健物理学会第 56 回研究発表会

主 催：一般社団法人 日本保健物理学会

共 催：一般社団法人 日本放射線安全管理学会

会 期：2023 年 11 月 9 日（木）～ 11 月 10 日（金）

開催場所：グランドニッコー東京台場ホテル

2. 臨時委員会にて医療被ばく国民線量評価委員会を令和４年６月から活動開始し令和６年５月までの研究成果を報告書にまとめた。令和６年６月から継続して２年間、研究活動を行う。

（１）設置趣旨

我が国は医療被ばくの国民ひとりあたりの線量（per-caput dose；国民線量）が世界一高いとされている。しかし、医療被ばくの国民線量の評価は年齢や疾患による偏りが大きいことから全体像の把握は難しい。これまで原子力安全研究協会の作成する「生活環境放射線（国民線量の算定）第３版」において推定され引用されることが多い。自然放射線からの国民線量は保健物理学会の臨時委員会において推定を行い学術論文として公表し（Omori, et al. JRP 40, R99-140 (2020))、世界に発信している。医療被ばくの国民線量の評価においても本学会が行い、学術論文として公表し世界に発信することが求められる。ただし、医療被ばくの線量は自然放射線とは異なり、全体像を国民ひとりあたりの線量のみで表現することは正しい実態は伝えられない。今後の変化していく医療を想定して医療被ばく線量評価方法の確立し、定期的に国民線量評価を行う仕組みの構築を行う必要がある。そこで、医療被ばく国民線量評価委員会を設置し、医療被ばくの国民線量の評価を行う。

（２）研究の目的

保健物理学会が今後定期的に医療被ばくの実態を評価するための方法論を構築する。

複雑化に変化していく医療被ばくの実態を表現するための方法（分類、代表値とその分布など）を確立する。研究を通して若手を育成する。

3. 日本保健物理学会・令和６年度企画シンポジウム開催（医療被ばく）のお知らせ

日時　6月28日（金）13時～15時

会場　Zoomウェビナー

趣旨

医療被ばくは診療に伴う患者の被ばくとして線量限度のない放射線防護が行われてきたが、近年の放射線診断の増加によって、診断参考レベルなどを設けて最適化を行うことが国際的に推奨されている。特に、CT検査は国内外の検査数は増加傾向にあり、それに関連した小児CT検査からの被ばく線量と脳腫瘍あるいは白血病のリスクとの関連が疫学的な調査から明らかになってきた。低線量において過剰なリスクが生じることを示した疫学的な知見は医療被ばくを伴う診療にどのような影響を与えるのか、放射線防護の視点から分析し討論する。

座長　横山　須美

1. 我が国におけるCT検査件数とその被ばく線量の変遷　20分　小野　孝二

2. 小児CT検査の疫学調査EPI-CTの報告　20分　吉永　信治
3. 小児 CT検査の疫学知見に関する課題　20分　甲斐　倫明
4. 医療従事者と患者のコミュニケーション　20分　五十嵐隆元
5. 総合討論　40分

資料5

【配付日時】
令和６年４月８日(月)14:00
※配布と同時に解禁
【本件リリース先】
(資料配付)
沖縄県庁記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会
*以下に日時場所で記者会見を開催
日時:令和６年５月９日(木)18:00～(30 分程度)
場所:沖縄県医師会館

令和６年４月８日
一般社団法人沖縄県医師会
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

おきなわ津梁ネットワークに線量管理機能追加へ
～安心で安全な放射線診断の提供に向けて～

【発表のポイント】
・沖縄県の診療情報をまとめて管理する「おきなわ津梁ネットワーク」に放射線診断時の線量情報を管理する機能を追加しました。
・本機能は量子科学技術研究開発機構が開発した患者の線量を評価するツールとの連携で実現しました。
・登録された線量情報は安全にまとめて管理し、今後の安心な放射線診断に役立てます。

沖縄県医師会（会長　安里哲好）と量子科学技術研究開発機構（理事長　小安重夫、以下「QST」）は、県内の診療情報をまとめて管理することができる「おきなわ津梁ネットワーク」と QST が開発した放射線診断時の患者の線量評価ツール DoseQUEST※との連携を行い、放射線診断時の線量情報を管理できる機能を追加しました。

近年、国際的に医療放射線の利用の実態把握や照射線量と患者の被ばく線量の管理などの関心が高まっており、我が国においても放射線診断時の線量の目安である診断参考レベルが発表されるなど、各医療施設による放射線診断の線量の管理と最適化が求められています。2020 年には医療被ばく規制を含む医療法施行規則の一部を改正する省令が施行され、個々の医療施設において CT などの撮影条件の管理および記録の義務化が行われました。このような線量情報の記録と管理が全ての施設において行われるようになると個々の患者の線量の把握も可能となると期待されています。

これまで沖縄県医師会では県内の参加施設内で登録された患者について診療に必要な情報をまとめて管理することができるシステム「おきなわ津梁ネットワーク」を構築してきました。このシステムを利用することで、診療・検査等から得られたデータを基に、登録患者の皆さまに適した治療法や予防対策を検討することができ、質の高い安全な医療の提供を可能にしてきました。この度、「おきなわ津梁ネットワーク」と QST が開発した放射線診断時の患者の線量評価ツール DoseQUEST との連携試験に成功しました。今後、DoseQUEST との連携によって、これまでの診療情報に加えて、放射線診断時の患者の線量情報についてもまとめて管理することができるようになります。患者の線量情報をまとめて管理することで、県内の患者の線量の実態把握が行えるだけでなく、施設間の撮影線量の差を小さくし、過度な線量での撮影を低減させるなどの取り組みを行っていくことができ、登録患者の皆さまにさらに安心で安全な放射線診断の提供を可能にします。

※DoseQUEST について
DoseQUEST は QST が開発した放射線診断時の撮影条件など線量情報を収集・管理することがで

きるツールであり、特に CT 撮影においては患者の線量を評価することできます。QST では全国の協力医療施設の CT 撮影の線量情報を収集・解析し、放射線診断時の線量の実態把握のための調査を行っており、DoseQUEST は全国の 16 の協力医療施設への設置実績があります。

本プレス発表に関する詳細な内容につきましては、５月９日（木）18：00 より、沖縄県医師会にて記者会見を実施する予定です。
本記者会見に参加をご希望の方は、下記の問合せ先に記載されている沖縄県医師会の連絡先までお問合せ下さい。

【本件に関する問い合わせ先】
(おきなわ津梁ネットワークについて)
一般社団法人 沖縄県医師会
TEL：098-888-0087、E-mail: okinawa-shinryo@okinawa.med.or.jp

(DoseQUESTについて)
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 放射線医学研究所
放射線規制科学研究部
古場　裕介　　TEL: 043-206-3099、E-mail: koba.yusuke@qst.go.jp

(報道対応)
一般社団法人 沖縄県医師会
TEL：098-888-0087、E-mail: okinawa-shinryo@okinawa.med.or.jp

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
経営企画部　広報課　TEL：043-206-3026、E-mail:info@qst.go.jp

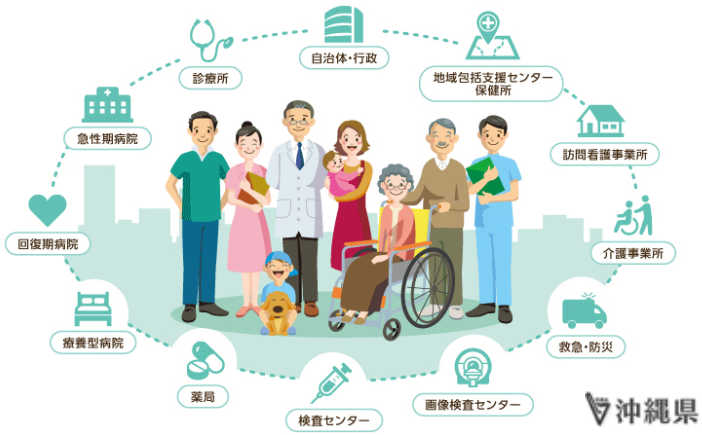
おきなわ津梁（しんりょう）ネットワークに線量管理機能追加へ

資料6

- 2020年4月の医療法施行規則の改正によりCT撮影などの線量の管理と記録が義務付けられ、**放射線診断時の線量の評価と最適化が求めれている**。
- 沖縄県の診療情報をまとめて管理する「おきなわ津梁ネットワーク」に**放射線診断時の線量情報を管理する機能を追加**。本機能は量子科学技術研究開発機構が開発した患者の線量を評価するツールDoseQUESTとの連携で実現。
- 放射線診断時の線量情報をまとめて管理・把握することにより、撮影条件の最適化する取り組みを行うことができ、安心で安全な放射線診断を提供することが可能に。

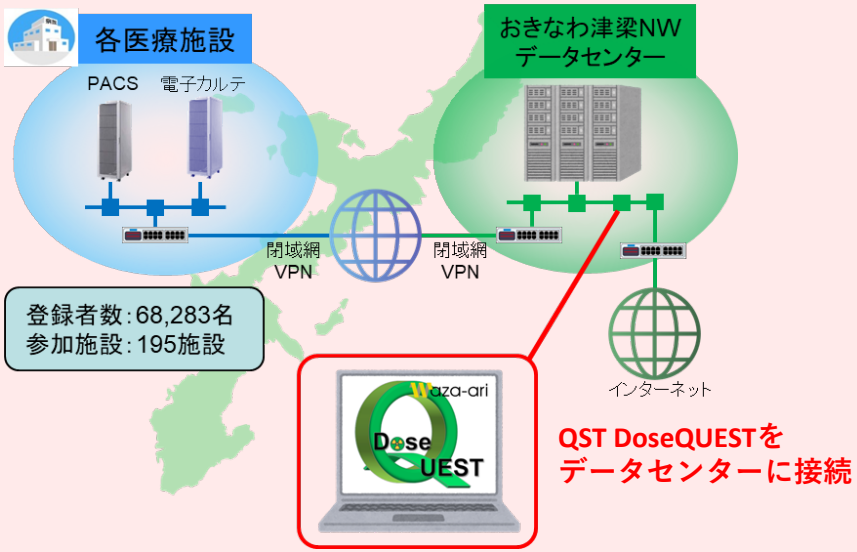
おきなわ津梁（しん りょう）ネットワーク
Okinawa Shinryo Network

県内の参加施設内で登録された患者について診療に必要な情報をまとめて管理することができるシステム「おきなわ津梁ネットワーク」を構築



沖縄県医師会

おきなわ津梁ネットワークに線量管理機能を追加



- 放射線診断時の線量情報をまとめて管理・把握
- 放射線診断時の線量の最適化を行い、安心で安全な放射線診断を提供
- 令和6年度中に試験運用を開始予定

放射線診断時の線量評価ツールDoseQUEST
- 量子科学技術研究開発機構（QST）が開発
- 放射線診断時の情報から患者の線量を評価